

放流ホシガレイが初めて確認されました！

茨城県では、水産資源の維持・増大を図るため、種苗（稚魚・稚貝）を生産し、海に放流して育てる「栽培漁業」を行っています。ホシガレイは、「第8次栽培漁業基本計画（R4～8）」より新たに対象種として選定され、令和5年度から種苗放流を開始しました。

種苗には、魚体の表面を小さくえぐる「パンチング」という標識を施しています。パンチングした箇所は、再生する際に通常よりも小さな鱗（再生鱗）に覆われるため、放流個体であることを判別できます。毎年パンチングする場所や数を変えることで、何年に放流した種苗かを確認できるようにしています。

11 月 14 日に久慈漁港の市場調査を行っていたところ、全長約 30cm の小型のホシガレイが水揚げされていました。体表をよく見てみると、腹側の後方に再生鱗が確認され、標識の位置から令和5年度に放流した種苗であることがわかりました。これはホシガレイ種苗放流を開始して以降、初めて水揚げされた放流個体になります。

引き続き、放流種苗がどの程度漁獲に加入しているかを調査し、ホシガレイ栽培漁業の効果を明らかにできるよう調査・研究を進めてまいります。

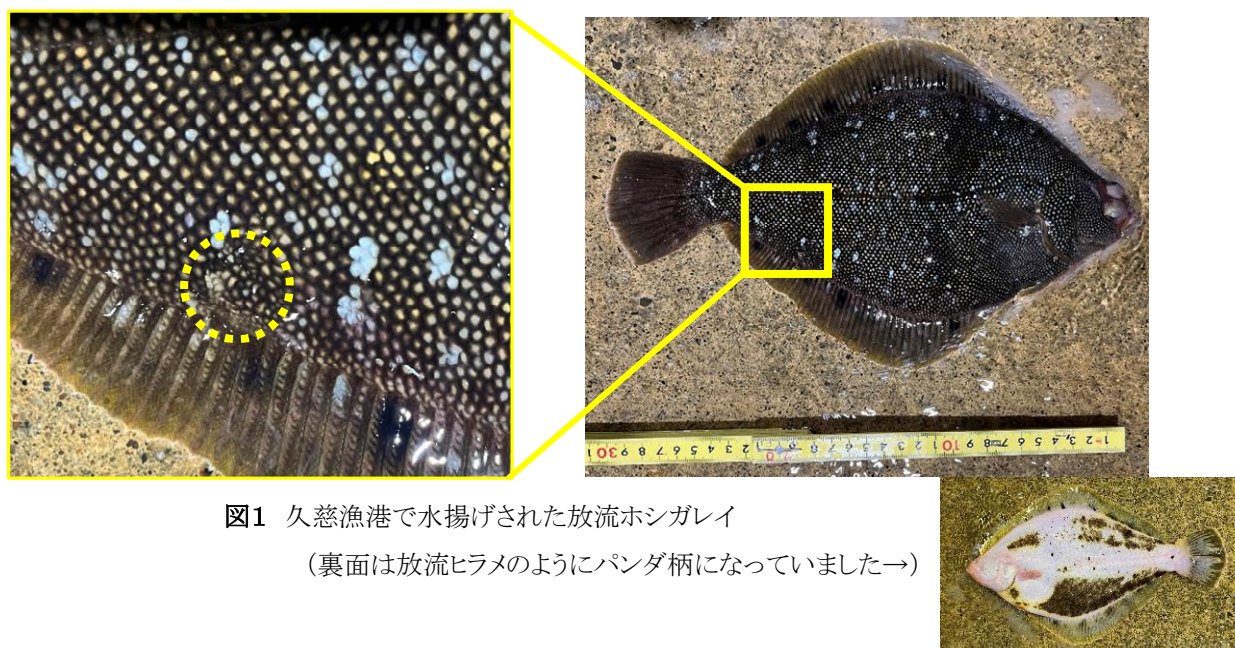


図1 久慈漁港で水揚げされた放流ホシガレイ
(裏面は放流ヒラメのようにパンダ柄になっていました→)

求む！ 標識ホシガレイ情報！

上記のような再生鱗を持つ、もしくはパンダになったホシガレイが漁獲された際には、茨城県水産試験場定着性資源部(029-262-4157)までご一報いただくか、大きさのわかるものと一緒に撮った写真、再生鱗の位置がわかる写真をご提供(suishi@pref.ibaraki.lg.jp)いただけると大変ありがたいと思います。

今後ともホシガレイ放流および追跡調査にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

(定着性資源部 多賀 真・外山太一郎)